

突き抜けていくような  
明るさ、元気さ

突き破っていく  
勇気、正義感

真実を見つめる  
まっすぐな眼

舞台を通して  
子どもたちに伝えたい!!

# あらすじ

中世・ドイツのある町の広場では、今日も職人たちが旅の途中で出会い、情報の交換やあいさつをかわしています。木こりのハンス、左官屋のハンス、鍛冶屋のハンスたちです。  
あれ、今日はいかけ屋のハンスが、新顔の娘をつれてきます。  
えっ、この娘をどこへつれて行くかって？  
じゃあ今日は、この娘との出会いについて話すことにしましょう。

いかけ屋（なべやかまの修理屋）のハンスは、家を出てからもう五年と七九月、旅を続けています。  
ある日のことです。井戸ばたで、ひとりの娘がシクシク泣いていました。

話を聞くと、主人夫婦は世にもまれなケチンボで、娘は朝から夜おそくまでこき使われ、お給金を催促すると、水車小屋の夜番に行かされるというのです。  
夜になると、その水車小屋には、おそろしいおばけがでるのです。

それを知ったハンスは…

## グリム童話の人気者「ハンス」とは

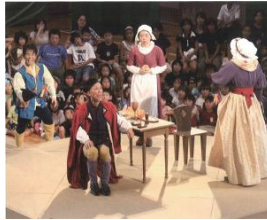
「ハンス」という名は、グリム兄弟がドイツに古くから伝わる昔話や民話を集めて創ったグリム童話集の中にたくさん出てきます。未っ子のハンス、ちびっ子のハンス、鉄のハンスというように……。また、他国の人たちは、ドイツ人のことを「ハンス野郎」などと呼んだりします。つまり「ハンス」はドイツの人たちの人気者の代表であり、代名詞でもあるのです。

貧乏で子だくさんのお百姓の未っ子のハンスたちは、畑仕事からはみだしてしまいました。なんとかして、自分の力でこの

世の中を生きてゆく力を持たなければなりません。そこで運だめし、力だめしにハンスたちは旅にでかけるのです。

旅をすればいろいろなことを見聞きます。畑や店など同じ土地で生活している人たちよりも、たくさんのお話を聞けること、たかさんのことを知ることができ、みな広い世間のことを知ることが集まってくる。そこでハンスは、陽気に生き生きと、新しい知識や珍しい話を語ってきかせるのです。

この「陽気なハンス」は、そのような中世の夜明けをつける職人や商人たちの知恵と勇気をいっぱいもった人気者「ハンス」の物語です。



## - 劇団風の子 -

劇団風の子は、1950年、まだ戦後の焼け野原の残る東京世田谷で創立しました。

「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考えること」を劇団の理念とし、以来、半世紀以上、「子どものいるとこ、どこへでも」を合言葉に、百数十名の団員がいくつかの班にわかれ、北海道から沖縄まで、全国の幼稚園、保育園、児童館、小学校、中学、高校、そして子ども・おやお劇場など、文字通り子どものいるとこどこへでもでかけて公演を続けてきました。

また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も毎年のように積極的に行ってきており、国際的な文化交流の輪も年々広がってきています。

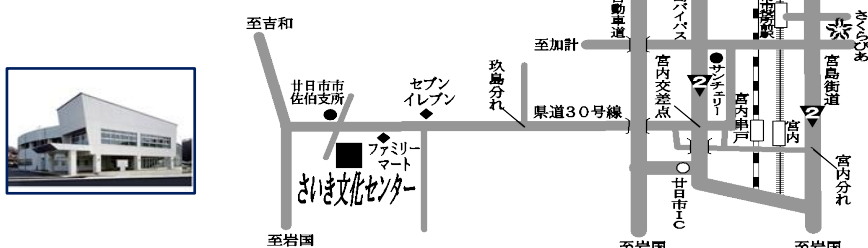
1980年代に入ってから、日本中を旅する全国公演班とは別に、それぞれの地方に定住し、地域の子どもたちに密着した活動をめざし、北海道、東北、東京、関西、中四国、九州の地に地方在住の劇団風の子を作り、その地域の特色を生かした公演活動を展開しています。

東京・関東を中心に活動する風の子東京は1984年に発足しました。

劇団風の子は、これからも、子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、全国をダイナミックに巡演するグループと地域でキメの細かな活動を展開するグループとが呼応しながら、子どもたちの中にとびこんでいきたいと思っています。

## 廿日市市さいぎ文化センター交通案内

- 自動車の場合、西広島バイパス宮内交差点を県道30号線吉和・佐伯方面へ15.5km約30分、佐伯支所前交差点を左折してすぐ。
- 公共交通機関の場合、広電バス宮内串戸駅バス停から津田吉和方面行きに乗車、佐伯支所バス停下車、南へ徒歩1分。



## 作者のことは

● 多田徹

この作品は、折にふれさまざまに形式で上演されてきましたが、大変好評で、子どもたちに喜んで見られています。

百姓の未っ子のハンスが、広い世間に飛び出して、知恵と勇気を発揮して、陽気に元気に生きていくさまは、いつの時代にも変わらない庶民のアイドル、子どもたちのヒーローにふさわしいのでしょう。

子どもが目から見ても、複雑怪奇になりすぎた現代であるだけに、逆に単純明快に前向きに生きまくるハンスの壮快さに心ひかれるのかもしれない。私たちも、ハンスに負けずに陽気に元気に生きてゆきたいものです。

そして、ハンスのように、弱いものをだましている世の中の妖怪どもの皮をはがし、打ちこらす勇気を持ち続けたいものです。妖怪たちは、まだまだたくさんいるのですから……。

（戯曲集「陽気なハンス」あとがきの一部から）